ISSN. 0910 - 4674

岡山地方史研究

2024.12　164

論文
近世後期～明治初期における大森家の経営と頼母子
…… 東野将伸（1）

■二〇二四年二月例会　ひろたまさき著『異国の夢二』合評会
『異国の夢二』の内容と感想
…… 首藤ゆきえ（20）

民衆史研究の蓄積と帝国意識をつなぐ試み
―ひろたまさき著『異国の夢二』をどう読むか
…… 長志珠絵（26）

博物館・展覧会めぐり
高梁市歴史美術館企画展「綱島梁川―明治を生きた思想家の生涯―」を見学して
…… 川上真奈（31）

読書日記
朽見行雄著『日本史を支えてきた和紙の話』（草思社、二〇二三年）
…… 内池昭子（32）

編集後記 …… （34）

岡山地方史研究会

明治時代になると、洋紙の登場によって日本各地の和紙産地に激震が走った。越前和紙で有名な五箇に二軒の岩野家があり、本家筋の岩野平三郎は新しい越前和紙の道を切り拓いて雲肌麻紙（くもはだまし）を作り出し、横山大観・竹内栖鳳など日本画の巨匠たちから強い支持を得た。また、分家の岩野市兵衛は昔ながらの伝統を守った越前奉書の手漉きに専念して、人間国宝に認定された。

平成七年（一九九五）、日本画家千住博は、雲肌麻紙を使って大地の根源から流れ出す滝を描き、イタリアのベネチアで開催されたビエンナーレの絵画部門に出品して、輝かしい栄冠を手にした。アップルの共同創業者の一人、スティーブ・ジョブズは、川瀬巴水（はすい）の浮世絵（大正・昭和期に「新版画」という）と出会い、その影響を受けて、新版画のように豊かな芸術表現が可能で、仕事を一人でこなしてしまえるようなコンピュータを作ることを目標とした。日本の伝統文化がデジタル技術の最先端と融合したのである。

長きにわたり日本の伝統文化の中心で働いてきた和紙は、草木から生まれ、それ自体が癒やしであり、現代人の心を包み込む力を持っている。和紙が日本人の中に生き続けて、持てる力をいかんなく発揮されたならば、日本人が心身のバランスの取れた新しいデジタル社会を作りあげることが可能であり、それは人類への大きな貢献となるはずである。

本書は以上のような内容であった。ところで、私が日頃書道で使う紙は、和紙のような風合いをした加工紙である。手漉き和紙は書き心地がよいのだが、高価なものが多い。そのため、書道の世界でも純粋な和紙を使う人は少なくなってきている。私の書道の先生で浅沼翡舟氏は、手漉き和紙が高価なために安い紙を買ってきて、さまざまな色のベンガラで色付けし、膠で金箔や胡粉を施し、プリンターで模様を印刷して新しい料紙作りを考案して、この料紙を「雅・新具引料紙」と名付けた。伝統的な料紙の作り方と現代の技術の融合である。このようにして、平安時代の雅な料紙に近いものを安く作り出そうとしている。一方、私がときおり使う手漉き和紙は、鳥取の青谷（あおや）和紙である。因州和紙の青谷和紙は、鳥取県が指定した無形文化財であり、高価といわれる和紙の中でも割と入手しやすくて書き心地もよい。近頃では、革新的な技術で作られる立体漉き和紙が誕生し、照明に使われているようである。岡山では津山の横野和紙が知られており、金箔や銀箔を挟む箔合紙が有名である。これも岡山県の無形文化財に指定されていたが、つい最近、この無形文化財保持者が亡くなってしまった。和紙は高価であるため買い手が少なく、後継者問題を抱えるなどして、伝統的な技法を将来に伝えていくことが難しい状況にあるだろう。そうした問題への対処法や、現代社会における和紙のもつ意味や役割を考えていく上で、本書は大切な一冊といえるのではなかろうか。

岡山地方史研究・一六四号・二〇二四年一二月一五日
発行・岡山地方史研究会　代表・山本太郎
事務局・岡山市北区伊福町二―一六―九　ノートルダム清心女子大学文学部　久野研究室気付・小野功裕
TEL　〇八六―二五二―二四八二
編集局・岡山大学文学部日本史研究室気付・東野将伸
印刷・友野印刷㈱・岡山市北区高柳西町一―二三
TEL　〇八六―二五五―一一〇一㈹